

「日々の理科」(第1827号) 2019,-7,10

「メダカの卵と稚魚をもらおう(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

メダカに産卵させるには、水草が必要だ。教科書には「オオカナダモ」「ハゴロモモ」などが載っている。しかし、今回はホテイアオイを使ってみた。



よく金魚の水槽に浮かんでいる、浮き袋のついた植物だ。実は顕花植物(種子植物)で、花も咲かせ、種子もできる。金魚屋さんで1株**百円(!)**程度だ。



花は青紫色で非常に美しい。しかし、自然界でも繁殖力が強く、生態系を崩す恐れのある植物として「青い悪魔」などと形容されることもある。



しかしホテイアオイは、メダカの飼育にとっては、誠に好都合だ。水中に伸びた長く黒い根が密生し、メダカが産卵したり、隠れたりするのに、非常に適しているのだ。



この黒い根から、直径1mm程度のメダカの卵を探すのは容易ではない。ローガン(老眼)が進行している私には無理だが、子どもたちは巧みに探し出す。この日も、50個以上の卵を発見していた。



卵を見つけたら、卵単独では採らず、寝言・・・ではなく根ごとハサミで採ったほうが良い。そのまま別の容器に移すのだ。これも子どもは上手だ。卵を潰すことなく、2-3個ずつ丁寧に採取していた。